

次期たかまつ男女共同参画プラン策定に向けた事業等の見直しについて（案）

1. 国の動向等

国においては、平成28年度からの5年間を計画期間とする次期男女共同参画基本計画の策定に向けて、男女共同参画会議のもとに計画策定専門調査会を設置し、基本的な考え方等について議論を進めています。

本市の次期プランの策定に当たっては、国の議論を見据えながら、また、高松市男女共同参画推進懇談会における議論や、市民意識調査の結果などを踏まえて、検討を進めていくこととしています。

今般、国から、計画策定専門調査会の会議資料として「第4次男女共同参画基本計画の策定に向けたコンセプト（案）」（以下「コンセプト」という。）及び「第4次男女共同参画基本計画の策定に向けた論点（案）」（以下「論点整理」という。）が示されたことなどを受け、次期プラン策定に向けた事業等の見直しを進めていくものです。

なお、見直しに当たっては、国の次期基本計画及び本市の第6次高松市総合計画（仮称）等との整合性を図るとともに、男女共同参画社会の実現には、長期間の継続的な取組が必要であることから、現行計画との継続性を考慮して策定するものとします。

2. 新たな視点の追加

(1) 女性の活躍推進

国のコンセプトでは、目的別の大分類として3本柱を設定し、その第1に「あらゆる分野における女性の活躍推進」を掲げています。また、「社会のあらゆる分野で2020年までに指導的地位に女性が占める割合を30%以上とする」という大きな目標があります。

本市においても、アンケート調査結果から、固定的な性別役割分担意識の解消傾向や、継続就業を肯定する意識の高まりが見られ、女性の活躍推進を求める意向が伺えます。こうしたことから、「女性の活躍推進」を次期プランの重要テーマの一つとして取り組みます。・・・資料2及び4参照

(2) 【男性型社会の変革】の推進

国のコンセプトでは、「男性型社会の変革」が重要であり、その要素を計画全体にわたる横断的視点として冒頭に位置付け、「男性」関連施策を充実させるとしています。

「男性型社会」（長時間労働などの働き方等）は、女性が望む多様な働き方を選べないばかりか、長時間労働による心身の疲弊など、男女ともに問題を抱える結果を生んでいます。

本市の次期プランにおいては、長時間労働などの働き方改革や、男性の家事・育児への参画など、男性を引き込んだ、「男性」の男女共同参画の推進に取り組みます。・・・資料2参照

3. その他留意すべき事項

(1) アンケート調査結果の活用

昨年9月に実施した、平成26年度男女共同参画に関する意識調査（市民意識調査、事業所実態調査、市民団体等意識調査）の結果では、性別役割分担意識や、継続就業等について、前回調査と比べ大きな変化が見られます。これらの結果を踏まえ、追加又は強化が必要な事業等の洗い出しを行います。・・・資料4参照

(2) ワールド・カフェにおける意見・アイデアの反映

本年1月に開催した、第4次たかまつ男女共同参画プラン（仮称）策定におけるワールド・カフェでは、テーマを「男性も女性も、いきいきと働き続けるためには」及び「ワーク・ライフ・バランスの実現のためには」とし、多様な意見やアイデアを頂いています。これらを汲み上げ、計画策定に反映等させていきます。・・・資料5参照

(3) 高松市男女共同参画推進懇談会等における意見に留意

本市における男女共同参画を推進するため、外部委員で構成する高松市男女共同参画推進懇談会及び内部組織として推進本部を設置し、計画策定に関することや、施策の取組状況等について意見を頂いています。

これまでに頂いた今回の計画策定に係る意見主旨を、次のとおり取りまとめましたので、これらの観点に留意しながら計画策定を進めていくこととします。


【意見主旨】

- 男女共同参画と言いながら、女性に関する評価指標が多い。男性に関する評価指標を入れることは、可能性としてあり得るのではないか。
 - ・男性の検診受診率など
- ワーク・ライフ・バランスについて、もう少し踏み込んだ施策が必要ではないか。休暇の制度など職場環境は整いつつあるが、制度の恩恵を個人が享受できるよう、プランで踏み込むべきではないか。
 - ・仕事と生活が両立しやすい企業風土を作る取組が必要ではないか。
 - ・育児休業等を地域の複数企業でカバーし合える枠組みができないか。
 - ・OBや高齢者の活用など、働き方の工夫を考えるべきではないか。
 - ・地域活動の意思決定の場において女性の参画拡大が必要ではないか。
 - ・現場の実態（母親の声等）を把握し、反映させることが重要である。
- 今までの社会構造は役割分担で成り立っていたし、それが効果的であったが、今はそれではやっていけない社会になっていることを前提に施策を進めていかないといけない。
- 男女共同参画の理念を、市民が正しく理解できるようなプランにすべき。
- 男女共同参画の具現化が大事であるし、特徴づけをして高松らしいプランにすべきである。
- 行政、企業、市民の役割分担と相互ネットワークに意を用いたプランにすべきである。
- DVの問題は根深いが、高松市は対応が進んでいると言われるようなプランを検討してもらいたい。
 - ・被害者救済だけでなく、加害者救済も重要である。
 - ・メンタルケアをしていくNPOの育成が必要ではないか。
 - ・行政でできないことを民間でもやっていくことが根本的な解決につながるのではないか。
- 男女共同参画の推進については、日本は遅れており、世界の先進事例や指標を参考にして取り組むべきである。
- アンケート調査結果は、単年度で見るのではなく、経年変化の状況から傾向として把握することが重要である。

(4) 国の論点整理に留意

国においては、次期基本計画策定に向けて、基本的な考え方の基礎資料となる分野別の論点整理を進めています。本市の次期プラン策定に向けては、国の次期基本計画との整合性を図るため、国の論点整理に留意しながら進めていきます。・・・資料3参照

4. スケジュールイメージ

3月～4月	関係課による見直しの検討
5月～6月	事務局案（素案）をとりまとめ
7月	第4回懇談会を開催
8月～9月	プラン案作成（原案）をとりまとめ
10月	パブリックコメントを実施
11月	第5回懇談会を開催
	 プランを決定（12月）
2月	シンポジウムの開催
3月	リーフレットの作成・配布